

## 子どもたち一人一人の学力を高める研究

### －図画工作科における育てたい資質や能力を意識した指導と評価の工夫－

#### 1 研究の内容

##### 1 主題設定の理由

本校では、これまで、図画工作科において、育てたい資質や能力を意識した指導を行ってきた。児童が自分なりの発想で試行錯誤を存分に行うことを保障することにより、そこには多種多様な表現で生き生きと活動する児童の姿が見られるようになってきた。そこで、育てたい資質や能力を意識した指導と評価について研究していくことにより、子どもたち一人一人の学力の向上に努めたいと考え、継続して研究を進めることにした。

##### 2 研究仮説

図画工作科において、4つの視点を意識した指導と評価を行うことにより、子どもたちの学力は高まるであろう。

##### 3 研究の内容

4つの視点を意識した指導と評価を工夫する。

#### 【授業づくりの流れ及び指導と評価における工夫のポイント】

|                       | 授業づくりの流れ  | 指導の工夫（手だての実践）   | 評価の工夫       | 指導・評価計画   |
|-----------------------|---|---|-------------|---|
| 視<br>点<br>を<br>意<br>識 | ◇題材の選択  | ※教科書準拠  |             | ●年間指導計画における題材の配列<br>●評価計画（重点化・焦点化された題材の配列）<br>●題材の評価視点のパターン化（分類）<br>●評価の視点、評価基準の共通化 |
|                       | ◇題材の理解  | ○題材分析   |             |   |
|                       | ◇目標（ねらい）の設定   | ○育てたい児童の資質や能力の明示  | ○評価基準の作成    |   |
|                       | ◇指導過程・計画の立案   | ○題材との出会わせ方  | ○評価の重点化・焦点化 |   |
|                       | ◇指導計画（研究授業）立案   | ○場の設定・準備  | ○評価方法の検討    |   |
|                       | ◇授業実践   | ○「4つの力」カード、ねらいの提示<br>○ピピッとタイムの活用<br>○教師の言葉掛け<br>○支援が必要な子どもへの手だて<br>○学習カード・ふりかえりカード<br>○図工ポスト（ピピッとカード） | ○評価と指導・支援   |   |
|                       | ◇実践の振り返り  |   | ○評価資料の統合・調整 |   |
| ◇題材における最終評価           |   | ○評価のまとめ   |             |   |
| その他                   | ○校内展示の工夫（ピピッとギャラリー等） ○保護者との連携<br>○地域素材の活用 ※中学校との連携・交流（必要に応じて保育園も） |   |             |   |

本年度の研究は、前年度までの研究の成果である上記の○に示す取組を、発達段階や児童の実態に応じて工夫しながら行い、課題としている「評価の簡便化」や「評価の妥当性や信頼性」を高めるため、上記の●に重点を置いて研究を行った。「4つの力」は常に発揮されるものであるが、題材や指導過程の全体を通して、バランスよく「4つの力」が発揮されることに配慮しながら、4つの視点を意識して指導過程や授業を組み立てるようにした。要するに、題材のねらい、指導過程における毎時のねらいなどを根拠に、指導のあり方や評価の重点化を試した。今使う（ねらいに則した）力が明確になれば、児童が自信を持ってそれらの力を存分に発揮して活動していくことができるであろうと考えた。

## II 成果と課題

### 1 成果

#### ■ 指導と評価の重点化・焦点化

指導と評価について「4つの視点」を意識する中で、あえて、その題材において付けたい（伸ばしたい）資質や能力を重点的に取り上げた。本年は、題材分析を反映した年間指導計画・評価計画に基づき、一題材一視点の指導と評価の重点化を図った。そのことによって、子どもにも教員にも分かりやすい授業のめあて（評価のポイント）の設定が容易となり、指導と評価における教員のゆとりが生まれ、負担軽減（評価の妥当性）にも貢献している。

#### ■ 評価方法の工夫について

行動観察、発言、カード（学習カード、ふりかえりカード、鑑賞カード）の記述、映像・画像での記録、つくりつつあるもの（作品）の様子等の評価方法を題材や児童の実態・発達の段階に応じて、組み合わせながら多面的にとらえ、個々の評価に生かすことができた。評価においては「児童の思い」を尊重し、それを把握するために、対話や学習カードの活用工夫を加え、有効な評価資料となるように努めた。児童の作品や活動のデジカメの画像は即時的な評価を補う情報として有益であった。

#### ■ 図画工作科の「4つの力」カードの提示

4つの資質や能力を子どもたちにもわかる言葉と絵で簡略化してキーワードとして示した。この「4つの力」カードを授業の始めに提示することにより、子どもたちにとっては発揮する力のめあてとなり、教師にとっては指導や評価・支援の視点となった。

### 2 課題

#### ■ 指導と評価の重点化・焦点化

- ・一題材一視点に絞りきれない題材について、改善を図る必要がある。
- ・教科書が変わるので、指導と評価の重点化・焦点化に関する年間指導・評価計画の見直しが必要である。

#### ■ 評価方法の工夫について

題材の指導過程において、「4つの視点」のそれぞれの資質や能力の表れや伸びをどのように評価（評定、個々の評価の総括）に結びつけていくかなどの判断の仕方について学習するなどの課題が残る。

#### ■ 新しい視点での図画工作の指導の充実

「鑑賞の力」「言語活動」等に視点を置いたり、「4つの力」の提示による児童の授業に臨む意識を分析したりするなどの新しい視点で図画工作の教科を研究していく。

（研究主任 遠藤建生）